



防波堤を視察する荒木(右から3人目)、伊藤(同2人目)の両氏ら

災害に強い街めざす

田原市で津波に備え対策探る

知部
愛本
党県

公明党愛知県本部災害・減災対策本部(伊藤寛一郎代表(参院議員)、伊藤同本部長、藤井本部長、前衆院議員)は6日、地震・津波による防災対策の強化に力を入れている同市を訪問し、津波対策などについて鈴木克幸市長らと意見交換を行うとともに、津波被害が想定される沿岸地域を見て回り、防波堤や水門などを視察した。これには、荒木清太郎(参院議員)、伊藤同本部長、渡会克明(市議員)、辻史子(市議員)が参加した。

同市は、渥美半島に位置し周囲が海に面していることから、特に東海・東南海・南海地震が同時発生した場合、津波による甚大な被害が出る予想されている。そのため、あま市は、渥美半島の防波堤の設置、住民の防災意識の啓発に努めている。また、同市では災害情報を迅速に把握し、いち早く対策を講じる「防災センター」を設立。同センターは、市内6カ所に配備された防災カメラを活用し、防災情報ネットワークシステムの確立をめざしている。

一行は「視察で学んだことを今後の災害対策に生かしたい」と語り、荒木氏は「命を守る政治の実現に向け、災害に強い街づくりに全力を挙げる」と決意を述べた。